

千葉の園芸

発行所 千葉市中央区市場町 1-1
公益社団法人千葉県園芸協会
連絡先 043 (223) 3005
毎月 1 日発行
平成 27 年 1 月号



平成 27 年の新春を迎えて



公益社団法人千葉県園芸協会
理事長 間 淵 誠 一

新年、明けましておめでとうございます。

皆様には、輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

会員の皆様方には、日頃、本県の園芸振興に多大なる御尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。

千葉県は、温暖な気候と大消費地である首都圏に位置する立地条件にも恵まれ、全国トップクラスの農業県として発展を遂げてまいりました。

中でも、野菜や果樹、花きなどの園芸農業は、米や畜産などを含める農業産出額全体の約半分を占める大変に重要な基幹部門となっており、これは、生産者の高い技術力と関係各位の不断の努力の賜物であり、心より感謝申し上げます。

さて、農業を取り巻く環境は、農産物の価格低迷が続く中、生産者の高齢化や担い手不足などが進み、生産力が弱体化するなど、大変に厳しい状況にあります。

このような中、昨年 4 月、産地間競争に打ち勝ち、千葉県農業の活性化を図るため、機能強化した新たな園芸協会がスタートいたしました。

新たに取り組む生産振興対策の大きな課題は、産地間連携を強化し、「オールちば」体制を築くことです。

現在、主要品目であるネギ、トマト、にんじん、さつまいもの 4 品目について、生産拡大、品質の向上はもとより、販売戦略の合意形成を図りながら、多様なニーズに対応できる産地間の連携を目指し、その推進に努めております。

また、野菜価格補償事業や青年農業者等育成センター、6 次産業化サポートセンターを設置するなど、関係法令に基づいた農政の推進にも積極的に取り組み、農家経営の向上に努めます。

さらに、国の農政改革の主要事業である農地中間管理事業については、生産の基盤となる農地を担い手に集め、効率的な農業経営を促進するため、今後とも関係機関と連携し農地集積を推進していきます。

今年も、各種事業には積極的に取り組んでまいりますが、農業県“ちば”の維持、発展のため、関係者の皆様にはより一層の御支援と御協力をお願い申し上げます。

終わりに、皆様方の御健勝、御活躍、そして本年が実り多き年となることをお祈り申し上げ、年頭の挨拶といたします。



頑張る産地

「JAきみつ」における新産地育成について

君津農業事務所 改良普及課
普及指導員 藤城 圭輔

君津市農業協同組合（JAきみつ）では秋冬ブロッコリー、エダマメ、抑制つるなしサヤインゲンの 3 品目を JA 取扱高拡大を目指す新規導入作物の奨励品目に位置付け、組合員に栽培を推奨しています。

1 新品目の導入

君津市・富津市・袖ヶ浦市にまたがる JA きみつでは新規品目導入を柱の 1 つとし、地域振興や耕作放棄地解消につなげる活動を行っています。秋冬ブロッコリー、エダマメ、抑制つるなしサヤインゲンの 3 品目を奨励品目に位置付け、組合員に栽培を推奨しています。県生産振興課の「ちばの園芸産地活性化支援事業」を活用しながら、種苗メーカー・農業事務所と連携して栽培講習会や巡回による栽培指導を行い、生産者の野菜作りを後押ししています。また、販売先を市場を通した大手量販店と定めることで、実需者と直接、情報交換を行うなど有利販売に努めています。



2 水稲裏作に秋冬ブロッコリー

水稲農家の所得増加を目的に秋冬ブロッコリーの導入を勧めています。稲刈り時期とブロッコリーの育苗時期が重なるため、苗の生産は地域の花き生産者に依頼しています。今年は苗 2500 トレーを農協経由で、生産者に配布しました。秋冬ブロッコリーの作付は今年で 3 年目になり、栽培面積 10 ha、生産者 44 人と拡大しており、生産拡大に手応えを感じています。秋冬ブロッコリーは 11 月中旬から 2 月にかけて出荷されています。

3 エダマメ出荷の長期化

小糸在来®の普及で秋のエダマメが定着しました。小糸在来®のエダマメの収穫期間は 10 月上旬から下旬までに限られます。市場でも直売でも好評のエダマメの出荷期間を延ばすため、夏穫りの食味の良い品種を導入して 6 月からの連続出荷を目指しています。

4 高齢者等への推進品目

君津地域はつる性サヤインゲンの産地ですが、高齢化により誘引に使う支柱の設置が困難となり、栽培面積が減少しています。そこで、作業負担が少なく栽培が容易なつるなしサヤインゲンを勧めることで、高齢者に栽培を続けてもらうとともに新規生産者の発掘も行っています。従来につるなしサヤインゲンとは異なり食味の良い品種を選定しているため、市場をはじめ直売所でも好評を得ています。

5 鮮度を生かした園芸振興



JA きみつ経済部の松崎部長、同営農課の佐藤担い手統括リーダーは「大消費地に近いことから、市場からの要望も踏まえて品目を選んだ。3 品目とも鮮度が重視され、消費者に人気がある。昨年より量、質、価格ともに向上させたい。」と意欲を見せています。また、21 人の TAC（タック）担当者を中心に農業振興にあたり、組合員のニーズに合った新規作物の導入提案や経営改善に加え、新規就農者の支援も行っています。



頑張る産地

イチジクを使って館山に新しい風を！

安房農業事務所 改良普及課
普及指導員 吉田 明広

館山市では、栽培に取り組みやすいイチジク生産が豊房地区、正木地区を中心に増加しています。その中で非農家から新規参入し、イチジク生産とイチジクを使った新しい取組を実践している館山パイオニアファーム代表の齋藤拓朗さんを紹介します。

1 産地の概要

平成19年頃から豊房、正木地区を中心にイチジク栽培が始まり、現在は1.2ha、11名で生産しています。取り組み後間もない生産者が多く、生産量はまだまだ多くありませんが、直売を中心に市場出荷も始めており、今後の活躍が期待されています。さらに、地域の加工業者や館山市と協力して、イチジクの加工品の開発、販路の開拓を行い、安定した販売先を確保しています。

2 経営の特徴

齋藤さんは家族4人で38a(ハウス10a含む)のイチジクを栽培しています。品種は「柘井ドーフイン」、「バナーネ」など8品種を栽培しており、8月中旬から11月中旬まで観光もぎ取りが4品種で楽しめます。また、通年で品種別のジャムも買えるスイーツショップを開店しています。



スイーツショップでの齋藤さん夫婦

イチジク栽培を始めた理由を伺うと、夏場に果物が少なく、イチジク栽培は観光果樹として地域に貢献できると判断したこと、定植から収穫まで時間がかからないために、取り組み易いことなどを挙げています。



イチジクと加工品ジャム(左) ドレッシング(右)

経営を始めるにあたり、実際に試験栽培を行い、観光イチジク狩りに向く品種を選定するところから始めました。そしてイチジク狩りの来場者数は年々増え、4年目の本年は約8,000名を数えました。

また、冬季はイチジクの苗作り教室を行い、地元の住民や観光客に対して独自の観光メニューを提供し、好評を得ています。非農家出身ならではの視点から多くのアイデアを実践し、経営の発展を目指しています。さらに、館山パイオニアファームを会場に地元生産者のマルシェを開催したり、市内ケーキショップと連携し商品を開発したりするなど、地域を巻き込んだ活動も積極的に行っています。

3 今後に向けて

イチジク栽培を通じて、館山市の産業活性化を図り、今後も、お客様にイチジクを楽しんでもらいたいと考え、日々農作業に精を出しています。

春ダイコンのトンネル被覆を省略できる、べたがけ栽培法の紹介

千葉県農林総合研究センター
水稲・畑地園芸研究所
東総野菜研究室 研究員 吉橋泰彦

農林総合研究センター東総野菜研究室（旭市三川）の試験ほ場において、2月播きトンネル春ダイコンは、品種・被覆資材・播種時期を選べば、低コストで省力的なべたがけ栽培が可能であることを実証しました。

千葉の春ダイコン栽培では、トンネル被覆が広く行われています。トンネル設置には経費、労力がかかるため、省力化が望まれています。そこで現在、低コスト・省力化が図れるべたがけを用いた栽培方法（写真1）を試験していますのでその状況を紹介します。試験は、①晩抽性品種の選定、②抽台抑制効果の高い被覆資材の選定、③べたがけ被覆で抽台発生しない播種時期の選定の3つの課題について行っています。

① 晩抽性品種の選定

現在の市販品種の中では「蒼の砦」（ナント種苗株）の晩抽性が最も優れ、次いで「トップランナー」（タキイ種苗株）でした。「蒼の砦」は根長が短く、一方「トップランナー」は長い傾向があるため、各品種の特徴を理解して使い分けます。

② 被覆資材の選定

被覆資材では保温性の高い「ベタロン」（ダイオ化成株）の抽台抑制効果が最も優れていました。次いで、安価な「パスライト」（ユニチカ株）でも抽台抑制に十分な効果が確認されました。「ベタロン」は「パスライト」に比べ2～2.5倍程度価格が高いものの、耐用年数が約7年と長く、「パスライト」は約2年と短いので他の作物への汎用性等も考慮して、被覆資材を選定します。

③ 播種時期の選定

播種時期は、本研究室圃場（旭市）では「トップランナー」を用いれば2月20日以降播きで抽

台は起きませんでした（表1）。2月10日播種でも収穫時の抽台は認められませんでした。収穫適期7日後には抽台率が28%に達し、抽台リスクが残る結果となりました。また、旭市より厳寒期の気温が低い市原市の現地圃場においても、2月21日播種で栽培が問題なかったことから、この地域でも2月20日以降の播種を目安に技術導入が可能と考えられます。

以上のように、品種「蒼の砦」、「トップランナー」を用いて「ベタロン」又は「パスライト」を被覆し、2月20日以降に播種することで、べたがけでの春ダイコン栽培が可能でした。今後は、継続して被覆除去時期などについて試験する予定です。



写真1 低コスト・省力化が可能なべたがけ栽培

表1 「トップランナー」の播種時期と調査時の抽台率（旭市）

播種日	収穫適期 推定日	調査日と抽台率 (%)						評価
		5月2日	5月8日	5月16日	5月20日	5月26日	6月2日	
1月28日	5月3日	29	46	—	—	—	—	×
2月4日	5月5日	0	8	—	—	—	—	×
2月10日	5月9日	—	0	28	53	—	—	×
2月20日	5月11日	—	—	0	0	10	36	○
2月25日	5月17日	—	—	—	0	0	38	○

注1) 被覆は播種時に「ベタロン」をべたがけした。
 注2) 収穫適期推定日は、根重の増加量を50g/日と仮定し収穫時の根重から推定した。
 注3) 抽台率は花芽5cm以上の株/調査株（20本）を示す。—は未調査。
 注4) 評価は、収穫時及び収穫7日後に抽台発生があったものを×、なかったものを○とした。



イベントを活用した愛知県の花き消費拡大について

愛知県東京事務所行政課
農産物流通対策グループ
主 査 早川 晋吾

愛知県は花き産出額 51 年連続日本一を誇っています。生産だけでなく、花の消費拡大や花育を通じた活動にも力点を置いており、花のある豊かな生活を目指した活動を行っています。

1 愛知の花き生産の概要

愛知県は、昭和 37 年以来 51 年間連続して、花き産出額が全国 1 位となっており、平成 24 年では、559 億円となっています。花き作付面積は 2,007ha あり、うち切り花類が 1,530ha で全体の 76.2% を占め、次いで鉢ものの類が 352ha、花壇苗ものの類が 125ha となっています。中でもキクは花き全体の 64% を占め、最も主要な位置づけとなっています。

2 花いっぱい県民運動



平成 25 年度から新たに県民の皆様の暮らしの中に花を取り入れていただく「花いっぱい県民運動」に取り組んでいます。この取組は行政の他、生産、流通、小売、消費の花き関係者や商工関係者で構成する「花の王国あいち県民運動実行委員会」が主体となっており、花や緑のイベントと併せて展開し、花への関心を高めるとともに、花の需要拡大、販売促進を図っています。具体的な取組として、親子で参加するフラワーアレンジメントや寄せ植え体験などプロの講師を招いた花育教

室の開催、月替わりで「今月のあいちの花」を決め、毎月の知事定例記者会見で紹介するほか、県庁舎の玄関や県内の空港や駅などの主要施設に展示したり、テレビの番組などで紹介してもらうなどの PR を行っています。また、この運動に賛同し、花壇の設置や花の展示など積極的に取り組んでいただいた企業、団体に対して「花の王国あいちサポート企業」として表彰しています。

3 あいち花フェスタ



毎年、県内地域回り持ちで開催していくイベントで、今年は中部国際空港セントレアで 11 月 21 日（金）から 24 日（月・振休）までの 4 日間開催されました。地元花き生産団体によるフラワーディスプレイや販売コーナー、花育教室、県内生産者が作った逸品を来場者が人気投票を行う愛知フラワーコンテストなどが行われました。

4 おわりに

このように愛知県では花きに身近に親しんでいただくことで花に関心を持ってもらい、花きの需要拡大による販売促進を行っています。

食の安全安心対策
～ドリフト防止対策～

全農千葉県本部 営農販売企画部
営農担い手支援課 名雪 浩章

食の安全安心のリスクは様々ですが、特に農薬残留基準値超過は多くの品目に共通するリスクであり、徹底した対策が必要です。

残留基準値超過原因は農薬の誤使用、散布器具の洗浄不足、ドリフト（農薬飛散）が大半を占め、千葉県でも過去にこれらが原因による事故が発生しています。

生産者自ら取り組む必要のある問題が、農薬の誤使用と散布器具の洗浄不足です。誤使用防止のため、使い慣れた農薬であっても最新の登録内容の確認が必要です。散布器具の洗浄は農薬が残りやすいタンク底、ホース内部、ストレーナ部の洗浄・点検が重要です。

一方、生産者が注意していても農薬残留基準値超過が起きてしまう場合があります。その代表的な原因がドリフトです。

ドリフト対策はドリフト低減ノズルの使用など散布器具による対策もありますが、防除作業は人の手により行いますので、風向きに注意して散布する、必要以上に散布圧力を上げないといった周囲への心配りが大切です。JAグループ千葉ではこの対策として桃色旗運動に取り組んでいます。この運動は隣接圃場の生産者へドリフトへの注意を促すため、収穫期が近い圃場に桃色の旗を設置することで事故防止に取り組む運動です。



第 64 回関東東海花の展覧会

開催の御案内

関東東海花の展覧会は、関東東海地域 12 都県の切花や鉢花など約 2,000 点が集まる国内最大級の花の展覧会です。千葉県からは、約 200 点が出展予定です。皆様御来場ください。

- 1 主催：関東東海地域 1 都 11 県
(千葉県を含む)
及び全国花き関連 6 団体
- 2 会期：一般公開（入場無料）
平成 27 年 1 月 30 日（金）～2 月 1 日（日）
（公開時間）1 月 30 日（金）10:00～16:30
1 月 31 日（土）10:00～18:00
2 月 1 日（日）10:00～12:30
- 3 場所：東京都豊島区東池袋 3-1
サンシャインシティ文化会館
2 階展示ホール D
- 4 内容
花き品評会、フラワーデザインコンテスト
花の装飾展示、園芸教室、展示品の即売等

問合せ先：県生産振興課園芸振興室
(電話：043-223-2871)

